

遊びながら親しんで 英語を道具として使いこなす

無理強いしないで
遊びを楽しむ

私は0〜12歳までの子どもの英語教室を運営していますが、子どもたちは、教室に勉強しに来ているとは思っていません。英語を使って遊びに来ているつもりで、いつの間にか英語が身近な存在になっているのです。一番大切なのは、子どもに「これをやらなければいけません」と無理強いしないことです。

0〜3歳では、英語のおもちゃを使って遊びます。ABCが書かれたものを使って「Aを取って」と言えば、自然にAがわかるようになります。CDで英語の歌をかけると、一緒に歌う子もいれば、ただ聞いているだけの

子もいます。そこで、「ほら、歌って」なんてせかす必要はありません。英語が耳に入っている状態を作るだけでも十分です。

”お勉強”せずに
歌で時制を身につける

2歳半〜6歳くらいになると、CDを何度も聞いて耳を鍛えたり、自分で書いてみたり、またはフォニックスを習ったりと、英語圏の子どもが幼児期に学ぶことをやります。それでも、「お勉強」という感じは出さず、歌詞に過去形、未来形が入った歌を使って時制を身につけるといった工夫をします。おやつときは、「Can I have cookies, please?」と口から出てくるようになるかもしれません。その時大切なのは、「今の言い方は違う」などと矯正しないこと。間違いを指摘されると、子どもは拒絶反応を示します。「それでは上達しないのでは」と思ってしまうかもしれませんが、CDなどで正しい英語を聞いているうちに自然に直っていくので、心配ありません。

英語を操る
自信を育てる

小学生になると、自分で本を読みたいと思うようになるかもしれません。私は子どもが自分から進んで取り組めるよう、モチベーション

ョンを高めるシステムを作りました。新しい課題にチャレンジすると、一つ上のレベルに進んだらそのカードを渡すのです。このシステムには「不合格」がなく、チャレンジした人はみな、次のレベルに進むことができます。「単語をたくさん覚えた」といった目に見える成果がないと不安な方もいるかもしれませんが、英語は何かをするための道具であって、学ぶことそのものが目的にはなりません。英語を使って遊んだという経験によって、子どもたちは自信を持って英語を使えるようになるのです。

エキスパートの極意

「強制しない」
「間違っても直さない」
やる気を高めて、
自然に身につけさせましょう

サイモン・ダウンスさん (Simon Downes)

イギリス生まれ。米サンディエゴ州立大学卒業、筑波大学大学院博士課程修了。バイリンガル教育を専門とし、「日本バイリンガル子育て協会」を設立。自身のスクールKozy Bear School (コージーベア・スクール) で指導を行う。

